

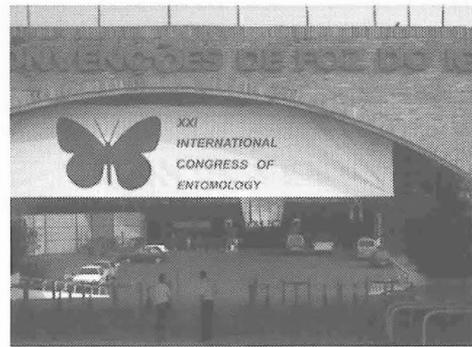
第 21 回国際昆虫学 会議報告

吉田 忠晴

2000年8月20日～26日、第21回国際昆虫学会議 (XXI International Congress of Entomology) が、大瀑布イグアスの滝で有名なブラジルのフォス・ド・イグアス市で開催された。本会議の開催は4年ごとで、今回は72か国から約4,000名が参集した昆虫学全般にわたる大きな会議である。参加者の多い国は、米国が300名以上、日本からの参加者は何と300名、ドイツ200名、オーストラリア200名、そして開催国ブラジルが600名と発表された。参加者の宿泊に市内29のホテルが当てられ、その内ブルボンホテルとマブーホテル、それにコンベンションセンターが発表会場になった。

会議は24のセッションで構成されていた。

1. ダニ学, 2. 農業昆虫学, 3. 生物地理学と生物多様性, 4. 化学生態学と生理生態学, 5. 昆虫学へのコンピュータ科学の応用, 6. 生態学と個体群動態, 7. 農薬の生態学, 抵抗性と毒物学, 8. 捕食性昆虫と生物学的防除, 9. 行動学, 10. 森林昆虫学, 11. 昆虫病理学の基礎と応用, 12. 遺伝学と進化昆虫学, 13. 昆虫生理学, 神経科学, 免疫と細胞生物学, 14. 総合的害虫管理, 15. 医昆虫学と獣医昆虫学, 16. 形態学と超微細形態, 17. 植物病の媒介昆虫, 18. 生殖と発生, 19. 社会性昆虫と養蚕学, 20. 環境昆虫学, 21. 分類学と系統発生, 22. 継続的な食物生産のための害虫防除の趨勢と研究目標, 23. 都市昆虫学と貯穀害虫, 24. 追加講演. 各セッションには2～11のシンポジウムが生まれ、合計172のシンポジウムでの講演と17の基調講演が行われた。ポスター発表は21～25日の5日間、各500題以上の発表があり、合計約2,700題にも上った。



大会会場の一つ、コンベンションセンター

シンポジウムでの講演と基調講演は、ブルボンホテルとマブーホテル、ポスター発表や企業などによる博覧会はコンベンションセンターで行われたため、ホテルの所在地域別に巡回する7系統のシャトルバスが運行された。しかし、シャトルバスがなかなか来ないことや、私を含めて日本からの参加者が多く宿泊したホテルは、当初講演会場になっていたが、突然キャンセルになるなどのトラブルも多く見られた。

ミツバチに関するシンポジウムは、サンパウロ大学の David De Jong 教授による「ミツバチヘギイタダニに対するミツバチの耐性」が開催された。「メキシコでのアフリカ蜂化ミツバチとヨーロッパ種でのダニに対するの耐性」、「アフリカ蜂化ミツバチ蜂群でのダニの生存」、「ブラジルでのダニ寄生による病気の発生」など11題の発表があった。

玉川大学からは、「日本産クサカゲロウの音響交信と交配実験」(新島恵子), 「マルハナバチの概日リズムのマスクングー高緯度地方への適応戦略一」(佐々木正己, 門田憲明, 光畑雅宏, 小野正人), 「ミツバチの吻伸展反射学習に及ぼす蜜胃内容量の影響」(市川直子, 佐々木正己), 「巣箱内光周処理によるミツバチの交尾飛行時刻の制御」(吉田忠晴, 小原慎司, 関原幹生, 佐々木正己)の発表を行った。会議中には、アルゼンチン、ブラジル側からのイグアスの滝の見学、ジャングル内の探索などを楽しむことができた。4年後の大会はオーストラリアのブリスベンでの開催が決まり、黄色のラパチョの花が咲くイグアスに別れを告げた。

(〒194-8610 町田市玉川学園6-1-1 玉川大学)